

## アキはかわいいそうな子かな

アキは、二年生の男の子。生まれてからずっと、立って歩くことはできません。話すこともできません。言葉のかわりに、手をちよつと上げてへんじをします。いたいときや、さびしいとき、いやなことがあるときは、泣いて知らせます。

アキは、みんなと遊ぶのが大好きです。みんなも、アキの言いたいことがわかるので、アキは学校が大好きです。

きょうはアキのおかあさんが、みんなにアキのことを、話してくれました。

## アキのおかあさんの話

みんなから

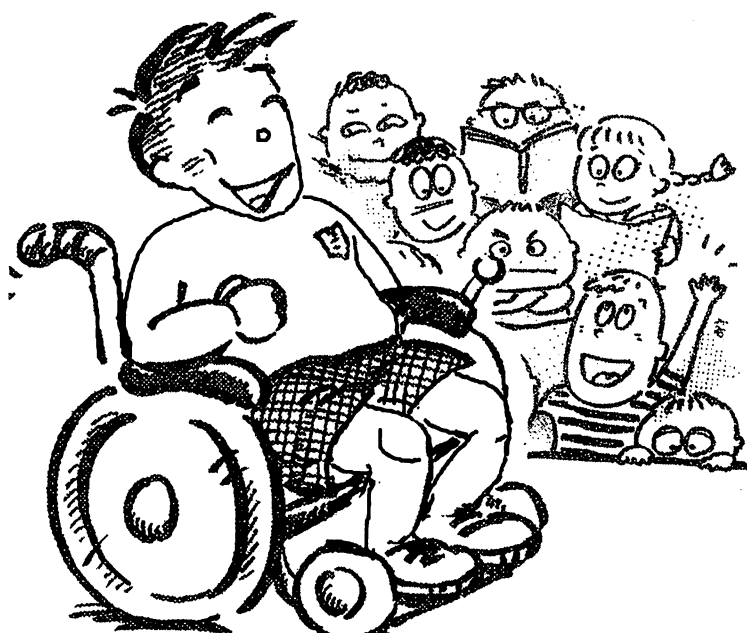
「アキ、どうして歩けんが？どうして、こんな体になったん？」  
とよく聞かれます。

アキがおばちゃんのおなかにいるとき、アキは

「ぼく、元気だよ。」

とポコポコ動いていました。おばちゃん、みんなのおかあさんと同じように、食べ物に気をつけて、おなかを大事にしていました。

でもアキは、生まれてからみんなほどミルクを飲みませんでした。そして、



だんだんやせていきました。おばちゃんは心配で、アキのことばかり考えていました。みんなが、元気で大きくなっていくのに、アキは歩くことができません。歩けるようになるための体そうを、二人で泣きながらしたこともありました。でも、アキは歩くことも、しゃべることもできませんでした。おばちゃんは、悲しくて泣きました。アキが、かわいそうでたまらなかつたのです。

でも、今はちがいます。歩けないことや話せないことは、そんなに大きな問題じゃないということがわかったからです。アキと遊んでくれたり、アキのことを、わかってくれるみんながいるからなんです。

歩けなくても話せなくても、みんなが力を貸してくれるから、アキはかわいそうな子ではないんです。アキを見ていけば、アキができそうなことがわかると思います。できることは見守ってほしいし、できそうなことはがんばれとはげましてほしいし、できないことは手を貸してください。

# アキはかわいいそうな子かな（小学校中学年向け）

## A 教材設定の意図

「障害」を持つ子も含めて、どの子も他の子と違っていても当たり前だし、同じことができなくてもいい。言われてみれば当然のことなのに、現実にはそれを軽蔑したり、許せなかったりする場面がよくある。今の日本の教育制度全体が、同じ速度での子どもの歩みを前提とし、画一的な内容で統制していることからすれば、違っているものを排除しようとすることは、子どもたちの責任とはいえない。だとすれば、私たち自身の手で、「違っていて当たり前」「同じことができなくてもいい」という価値観を、子どもたちに養いたい。

「歩けない」「しゃべれない」……そうした「障害」のある子について、多くの子どもたちは「かわいそう」だと思うことだろう。しかし、アキのまわりの子どもたちは、地域で保育所の頃から自然な形で、いっしょに遊び、育ってきた。つまり、関わり合う中でアキの仲間たちは、「障害」の持つマイナスイメージから解放され、ごく自然な人と人との関係を結んできた。この教材では、「かわいそう」という思いを乗り越えていく、アキのおかあさんの気持ちに触れさせるとともに、「違い」や「できないこと」に対して、蔑んだり非難するのか、それとも見守り、励まし、助けたりするのかを、自分のこととして考えさせたい。

## B 教材の解説

保育所時代から、アキは地域の子どもたちと自然な形でつきあってきた。そういった関わりを見守ってきたアキの親は、小学校も地域の学校を選択する。そしてアキは、障害児学級に籍をおきながらも、多くの時間を親学級で過ごし、仲間をつくってきた。

アキ自身は歩くことも話すこともできないが、表情豊かに自分の気持ちを表す。そして、そういうアキの気持ちを実にうまく感じ取ってくれる、まわりの子どもたちがいる。そうした子どもたちどうしの関わりを見守ってきたアキの母親は、「障害児アキ」から「我が子アキ」へと自分の気持ちに変化していったという。その母親が、二年一組の子どもたちへ、これからも友だちでいてほしいという願いを込めて、自分の「アキに対する思い」を子どもたちの前で語った。お母さんの話に耳を傾ける二年一組の子どもたちを思い浮かべながら、読み進めたい。こうして友だちの支えや励ましの中でアキを見守ってきた親は、普通学級への転籍を希望し、教師集団の支持もあって四年時に普通学級へ移った。そしてそこでさらに仲間を増やしていったことを付け加えておきたい。

## C 指導上の留意点

- ① 障害児学級に在籍する子どもの中には、交流も少なく、ま

わりの子どもたちとの関わりが絶たれている場合もある。そういう状況にある子どもたちにも目を向けながらとりくむ場合には、教師の価値観の押しつけにならないよう気をつけてほしい。

② 「障害」に対して、子どもたちの多くは「かわいそう」という思いを持つ。それと同時に「アキが教室にいたら、いっしょに遊ぶ」という思いも持つ。どちらも素直な感想として大事にしたい。

## D 参考

・石川の人権教育第3集「出会いを求めて」（一九八八年 石川県教組）

「あきらをつつむ子どもたち」

中村秀人（松任市立蕪城小学校…当時）

### 本教材を使った授業から

◆クラスにいる話さない子はかわいそうかという話になり、子どもたちが本音で話をしてくれよい機会になった。（小松）

◆「お友達が大事にしてくれるから」「力を貸してくれるから」（かわいそうでない理由）クラスにアキがいたら「車椅子を押してあげる」「手遊び」「お絵かき」「キヤッチボール」をしてあげる。アキが男の子だから男子が遊んでやらなくてはならないのか、について話が深まった。自分がいやな思いをしたことがあるか、自分

に振り返ったとき、「ガリ」「チビ」「ゴリラ」などが出てきた。また「こんなんもできんが」と軽く言われてもカ―ツとこないが強く言われるとむかつくと意見も出てきた。自分を振り返ったのはよかったと思う。（能美）

◆今までなら「かわいそう」ですませてしまう場合が多いが、本当にそうなのかと問い返されて、アキの周囲をとりまく友だち（自分たち）のあり方に気づく子が多くなるように感じた。（石川）

◆「ぼくは、さんすうがすきだけどこくごはとくいじやあない。プールはとくいだ。うみはとくいじやない。チャボはさわれるけどはじめてあった犬はさわれない。たかちゃんさんはさんすうがとくいじやないけどこのごろさんすうがとくいになってきました。たかちゃんはおんがくのピアニカはとくいだけどモツキンとかはあんまりできない。たかちゃんとはぼくはぜんぜんちがうけどぼくはたかちゃんのことが大すきです。」（羽昨）

◆アキは歩けるようになるが、しゃべれるようになるがと始めは心配しながら聞いていた。それはわからないのという、かわいそうにと言っていた。でも、もしクラスにアキがいたとしたら、どんなふうに遊びますかと聞くと、いろいろ世話をしたい、歩けなくてもできるランプをいっしょにやりたいと言って、何ができるか考えてくれた。アキはかわいそうな子ではないと思うのはむずかしい子もいたが、できなくても励ましてくれたり、助けてくれる友だちがそばにいれば、決してかわいそうでないことがわかった子もいた。（鹿島）

E 授業の展開例

| 教師の基本発問・助言  | 児童の活動・指導の要領   |
|---|---|
| <p>一 導入</p> <p>①車いすに乗った人を見たことがありますか。</p> <p>②はじめの部分（前文）を読みましよう。アキはどんな子ですか。</p> <p>二 展開</p> <p>③「アキのおかあさんの話」を読みましよう。</p> <p>④アキのお母さんが、「アキはかわいそうな子ではないんです」と思えるようになったのはどうしてですか。</p> <p>⑤もし、あなたのクラスにアキがいたとしたら、どんなふうに遊びますか。また、どんなことがしたいですか。</p> <p>⑥あなたは、他の子と違っていたり、同じ</p> | <p>①「障害」について、ほとんど知らない児童もいると思うので、車いす等の絵を準備するなど、ある程度イメージを持たせたい。</p> <p>②「障害」の状況だけでなく、学校生活の様子もおさえておきたい。</p> <p>③児童に合わせて、教師の範読も考えておきたい。</p> <p>④小さい頃のアキに対する気持ちと、今の気持ちを比べながら考えさせたい。特にまわりの子どもたちのアキに対するつきあいが、お母さんの気持ちを支えていることをおさえたい。</p> <p>⑤アキの遊ぶときの様子など、具体的に想像させながら考えさせたい。また、アキのお母さんの願いが表れている部分に目を向けさせたい。</p> <p>⑥現実には、他の人と違っていたり、同じことができないと言う理由</p> |

ことができなかったことで、からかわれたり、いやな思いをさせられたことはありませんか。

### 三 まとめ

⑦アキのことや自分のことで考えたことを書いてみましょう。

で軽蔑したり、許せなかったりする場面がよくあるということに気づかせたい。そして、子どもたちの発言は大切にしながら子どもたちに返していきたい。

また、「気になる子」が存在する場合は、あらかじめその子の発言を意図的に取り上げて展開することも考えておきたい。

⑦作文の背景にある一人ひとりの思いを読みとるとともに、子どもたちの思いをつなげていく視点で、次時につなげることも考えておきたい。